

春季の佐渡海峡周辺海域における底魚類の 卵・仔稚魚の分布 (要旨)

永 澤 亨

(日本海区水産研究所)

佐渡海峡および周辺海域においてマガレイを対象とした初期生活史の研究を行ってきたが、その調査を通じていままでも知見の少なかった3、4月の卵・仔稚魚の分布についての知見が蓄積されてきたのでその概要について報告する。仔稚魚の採集方法としては口径70cmのボンゴネットを用いた水深100mからの傾斜びきである。3、4月に出現する有用魚類仔稚魚は7科20種程であるが(表1)、マガレイ、ウスメバル、スケトウダラ、ホッケ、マコガレイの上位5魚種で全出現個対数の90%以上を占めており、組成としてはかなり単純である。リスト中の魚種でもババガレイやヤナギムシガレイは他の時期を含めても採集例は非常に少ない。ヒラメは4月に1個体が採集されたのみで、出現の中心は5月以降にある。また、出現種の多くが北方起源の冷水性魚類である。

出現種の多くは調査海域の陸棚部を中心に分布するが、ホッケおよびウスメバルは佐渡海盆を含むほぼ全域から出現する。この2種の成魚はいずれもやや沖合の天然礁海域に多く出現するが、孵化あるいは産出直後の仔魚が陸棚部の浅海部にも出現している。3月は西からの季節風の影響が強く、2種の仔稚魚はいずれも表層に分布することから、海流の影響で北東方向に移送されるのみならず、季節風によっても本州沿岸側に移送されるものと考えられる。

表1 3、4月に佐渡海峡周辺海域に出現する有用魚類仔稚魚

タラ科	ヒラメ科
マダラ <i>Gadus macrocephalus</i>	ヒラメ <i>Paralichthys olivaceus</i>
スケトウダラ <i>Theragra chalcogramma</i>	カレイ科
イカナゴ科	ムシガレイ <i>Eopsetta grigorjewi</i>
イカナゴ <i>Ammodytes personatus</i>	イシガレイ <i>Kareius bicoloratus</i>
アンコウ科	アカガレイ <i>Hippoglossoides dubius</i>
キアンコウ <i>Lophius litulon</i>	ヤナギムシガレイ <i>Tanakius kitaharai</i>
フサカサゴ科	ヒレグロ <i>Glyptocephalus stelleri</i>
カサゴ <i>Sebasitiscus marmoratus</i>	ババガレイ <i>Microstomus achne</i>
メバル <i>Sebastes inermis</i>	マガレイ <i>Pleuronectes herzenstini</i>
ウスメバル <i>S. thompsoni</i>	マコガレイ <i>P. yokohamae</i>
キツネメバル <i>S. vulpes</i>	
ムラソイ <i>S. pachycephalus</i>	
アイナメ科	
ホッケ <i>Pleurogrammus azonus</i>	
アイナメ <i>Hexagrammus otakii</i>	